

平成 30 年度 第 2 回習志野市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 平成 30 年 11 月 7 日（水）午後 3 時から午後 5 時
場 所 習志野市庁舎 1 階会議室
出席委員 矢坂会長 及川副会長 大沢委員 阿川委員 谷藤委員 河村委員
滝田委員 遠山委員
欠席委員 菊地委員
出席職員 斉藤生涯学習部長 岡村生涯学習部次長
柴野生涯スポーツ課長 田村係長 湯浅主査 高野主任主事
傍 聴 人 なし

<次 第>

開会

第 1 会長選出

矢坂委員が会長となる。

第 2 副会長選出

及川委員が副会長となる。

第 3 会議録作成等

要点筆記とする。

第 4 会議録署名委員の指名

大沢委員、及川委員

第 5 報告

(1) 平成 30 年度スポーツ・運動に関する市民アンケートの結果について

【資料に基づき事務局より説明】

(説明概要) 6 月に行ったアンケート調査の集計結果について報告。

谷藤委員：報告書 2 ページの「集計にあたって」の中の、クロス集計が消されたのはいかなもののでしょうか。

事務局：今後の計画策定にあたりクロス集計は必要不可欠と考えています。当該作業については委員さん方から御意見を頂戴しつつこれから進めていこうと考えております。

谷藤委員：あくまでホームページに載せる報告書にはここまでという理解でよいのでしょうか。

矢坂会長：これからクロス集計等々進めていくにあたり、各委員のお力を借りないと難しい部分もあるので御協力をお願いしたいと思います。

河村委員：資料 2 が概要版みたいなイメージでしょうか。アンケート結果を公開するにあたっては、前回のアンケートの際も提案しましたが、概要版と、要点、重要事項の報告と両方あると良いと思います。資料 2 が一枚なので、もう少し特徴的な部分や、前回と変わった点もいくつかあるかと思うので、もう一枚くらいプラスアルファの情報がホームページで公開されると良いかなと思います。

滝田委員：ちょっとわからなかったのが、するスポーツのほうで運動をしている人の割合が 56.9%で、週 1 回以上運動している人が 51.9%とのことですが、どのように出したのですか。

事務局：5ページのグラフは運動している人と、していない人を分けたものです。6ページのスポーツ・運動をしている頻度については、運動している人の内訳として作成したグラフであり、その中で、「ほぼ毎日」「週3回程度」「週1回程度」と回答した人の全体の割合が51.9%という数字でした。

遠山委員：3点ほど。スポーツと運動はどのように定義づけをしたのでしょうか。

事務局：アンケートの中では、特段スポーツと運動の区別や定義づけをしていませんが、設問の中で、運動というのは「日常生活の中で意識的に身体を動かすことも含みます」と注釈をつけています。スポーツというと競技という受取り方になると思うので、運動の一例として日常的な散歩や、移動時に車や電車を使わず、徒歩や自転車を使うことなどを例示としてあげています。その他にも体操やヨガ等も運動に該当します。

遠山委員：他の設問では「スポーツ・運動」となっているものと「スポーツ」となっているものがあります。観戦するものはスポーツなのでしょうけども、それ以外の部分で回答する方に対し、意図が明確に伝わっているかどうか。

最終的には計画につながってくる話だと思うので、スポーツ推進計画の中に運動を含むのか含まないのかといったところも、たとえば高齢者が身体機能の維持のために運動することをスポーツだとすることは一般的ではないでしょうが、計画としてはそこも推進しようとする計画なのか、その部分が明確になっていないと感ずきます。

先程、クロス集計はしないとおっしゃいましたか？それともこれからする？

事務局：この報告書の中ではせず、計画策定に向けこれから行う予定です。

遠山委員：実務的にはするということですね。集計項目については各委員からの意見を聞いてということだと思いますが、一般的に男女差ですとか年齢差ですとか、地域差はあまり出てこないかと思いますが、どの属性の人にどのようなニーズがあるのか、不足しているのかを調べるためにクロス集計をするので、その結果がないうちに施策体系が出てくるというのも、若干不思議な気もしますが。

報告書は設問全部を公開するのですか。

事務局：全部公開します。

遠山委員：いただいている資料はすべての設問が入っているものなののでしょうか。

事務局：すべて入っています。

矢坂会長：遠山委員の御意見は、計画策定にあたり、クロス集計は必要だということだと思います。今回委員さんから御意見を頂戴して、ホームページに載せるコーナーは報告書を基準に載せるという理解でよろしいかと思ひます。

阿川委員：前回平成27年度に行ったアンケートの回収結果はどうだったのですか。

事務局：前回については同じく3,000票を送付して、1,050票の回収がありました。回収率にすると35%程で、今回とほぼ同様の回収率でした。

阿川委員：習志野市のスポーツ団体、「総合型地域スポーツクラブ」、「市民スポーツ指導員」、「スポーツ推進委員」、スポーツ推進委員連絡協議会のやっている「奨励大会」の認知度が低いことについて、スポーツ推進委員の一員としてショックを受けています。

総合型地域スポーツクラブについては、下がってはいるものの、県全体での認知度が11%なので、16.4%という数字はまあまあかなと思っています。いずれにせよ

認知度を上げていかななくてはいけないというのは総合型地域スポーツクラブ、市民スポーツ指導員、スポーツ推進委員に共通する課題で、もっと力をいれて市民の方に向けてPRが必要だと反省しています。

スポーツと運動の区分といいますか、市内には3つの総合型地域スポーツクラブがあるわけですが、その中でウォーキングをやっている団体もあれば、うちの団体では健康体操、ヨガ、ストレッチが特に御年輩の方のニーズが非常に高く参加者が多い現状ですが、この辺は運動というのかスポーツというのかというのが少しありまして、計画の中で明確にさせていただけるともっと市民の方に対してもわかりやすいのかなと思います。

矢坂会長：反対に阿川委員は総合型とか、スポーツ推進委員を市民の皆さんが御存知ないということについて、どこに原因があるとお考えですか。

阿川委員：私は3つの役職すべてかかえておりますが、スポーツ推進委員は市全体の事業として、市民の方に運動するきっかけづくりとしての場を提供しています。

先月行った「パークゴルフのつどい」についても、前から比べると、人気が高くなってきていて、スポーツ推進委員も休む暇なく一日中張り付いているという状況でした。その割には御存じないという方が多いということについて、ひとつには奏の杜に他市から新しい方が越してきているという状況があり、アンケートの回答結果においても奏の杜の方の回答者が多いことから、それらの方々へのPRが足りなかったのかなと感じています。

矢坂会長：問題点を見出して、それに対処するようなかたちでやっていけば良いと思います。

大沢委員：今回私が初参加のため、この審議会が目指す方向性が、スポーツを推進するか、運動を推進するか、全部をやりなさいとしているのか、見えていない部分があります。若い人、例えば高校生等であれば黙っていても運動します。一方、高齢者や中高年、お仕事で忙しい方などはスポーツができなくなってくると考えられます。そのあたりを知りたいので、このアンケートでは年代別の集計が欲しいと感じました。例えば、高齢者では運動をしていない人が多いという結果であれば、ターゲットとする層によって推進するやり方が変わってくるのではないかと思います。この審議会が審議する内容が、習志野市民全員に対して単にスポーツをやりなさいとするのか、高齢者や若者などターゲットを絞り、対象者毎に施策を考えていくのかという方向を知りたいです。

矢坂会長：アンケートの年齢別集計のデータはありますか。

事務局：まだ集計が終わっていません。

大沢委員：高齢者の認知症予防にも運動は効果的だと思うので、そういったデータが欲しいと感じました。

事務局：国がスポーツ基本計画に則り、似たようなアンケート調査を実施しています。その結果によると、高齢者の方は比較的運動をする方が多いというデータが出ている一方で、若い方はしっかり運動される方と、まったく運動されない方と二極化しており、実施率としては高齢者よりむしろ低めに出ている傾向があります。

中間層といいますか、現役でお仕事をされている方や、子育て世代の方などの実施率が低いというデータが、国のアンケートの結果では出てきています。今回私共が実施したアンケートについては、各設問の集計ができた段階ですので、これから年齢別、あるいは性別による分析をしていきたいと考えています。分析結果について

は国と似たような結果となるのではないかと思います。

先程、スポーツと運動の定義といった御質問が複数の委員からありましたが、スポーツとはこういうものかという定義をするつもりは、私共としてはございません。といいますのは、スポーツの定義とは非常に難しいもので、段々と曖昧になってきております。一例を挙げますと、先般のアジア大会などではeスポーツということで、ゲームを使ったスポーツも、いわゆるスポーツ大会の一種目として、正式種目ではなくとも位置付けられているように、行政の側からここからここまでがスポーツですよと押し付けるのは少し違うのではないかと考えています。

アンケートにおいて「運動」とつけたのは、スポーツというと競技性だけをイメージしがちですが、そうではなくて単に身体を動かすことまでも含めて、私どもとしてはスポーツ等と考えていきたい。前回7月に行われた審議会でも福祉分野の施策の中で、この計画にはそぐわないので計画に含めることを止めていきたいという担当課からの意見について、違うのではないかと、もっと広くスポーツを捉えて良いのではないかと御意見もありましたように、少し広めに定義づけはしていきたいなと思っておりますので、「スポーツとはこうです。運動とはこうです。」といった定義づけはすることなくもう少し広くとらえていきたいと考えています。

アンケートのタイトルで運動とつけたのは、間口を広げる必要があるだろうというところ。「スポーツに関するアンケート」としてスポーツが嫌いな人が「私には関係ない」と中も見てもらえないような、そんなことがあってはいけないということから「スポーツ・運動」と並列の標記にしましたが、個々の設問の記載においては、全て並列表記とすると若干うるさい感じになってしまうので、割愛をさせていただいているという理解をしていただければと思います。

谷藤委員：対象については大賛成なのですが、報告書の中で御意見が出たのは、文章の中で用語が混在していて、スポーツ・運動だなと思って見ているとスポーツだけの部分があったりするので、あえてスポーツと運動を分けているのではないかと印象をもたれたのではないかと思います。私としてもスポーツの定義づけはしたくないと思っておりますが、報告書のまとめ方としてはもう少し見直していただきたいと思っております。

報告書について要望を言っても良いですか。

事務局：是非お願いします。

谷藤委員：大沢委員からの御意見を聞きながら、確かにこの報告書をインターネットに載せたときに、いったい誰が使うのだろうと、考えたらわからなくなりました。計画でも市民の方、あまり見ないわけですよ。報告書だとさらに見る人は少ない。最初は年代別にあると面白そうだなと思ったのですが、そもそも見ないなど。その上で、誰がこの報告書を見るだろうと考えたときに、あるスポーツ団体が「皆さんスポーツしましょう」といったときに、このデータありますよと示すときに使うのかなと想像したら、もう少し年代別とかのデータがこの報告書にあっても良いのではないかと思います。これ以上のクロスは別途でも良いと思っております。

性別年代別のデータは使う人のことを考えると欲しいかなという気がしました。居住地区も欲しいような気もしたのですが、人数をみると分けても仕方がないなという気がしたので、そこはしまっておきます。以上、要望です。

矢坂会長：幅広く考えると運動も入ってくると思っておりますので、今回の調査対象は19歳から60

歳以上と幅広いので、運動ということも聞いておかないと歩くことも運動とっていらっしゃる方もおられると思うので、難しいところですけども、幅広く皆様に知らしめるという意味では、スポーツと運動ということで良いと思います。また、集計に関してはきちんとしたものを、出せば良いわけですから。

及川副会長：支えるスポーツというところで、27年度と30年度の比較が出ていますが、参加したことがあるという人も増えていきますし、今後参加してみたいと思う人も大幅に増えている。世界ソフトの大会もありましたし、そういったボランティアをする機会もあり、これから2020のボランティアについてメディアでもボランティア募集をしていますので、そういったところで、皆さん興味をもっているのではないかなと思います。すごく興味深く、参考になって良かったです。

滝田委員：今回奏の杜のアンケート回収率が非常に高かった。その次が秋津で、この結果を見てふと思ったのが、運動する場所も関係してくるのかなということ。奏の杜には新しい公園があったり、歩道も広がったり、いろいろな面で整備されているからか、朝ウォーキングしている人も非常に多いなと感じています。秋津や香澄も公園が近くにあるので、地区ごとにどこで運動するのがわかると、普及するきっかけにもなるのではないかなと思います。

今小規模なスポーツジムが増えてきていて、奏の杜にはたくさんある印象があり、そういうところに気軽に入れるようになってきていると思うので、居住地域によって運動やスポーツする場所に若干違いがあるのではないかとアンケートを見て感じました。

それが見えてくれば改善していくと感じたので、集計するのは難しいのかもしれないけれども、ある程度方向性が見えれば良いなと思います。

前回の計画では大学の施設を活用することを盛り込んだのですが、実際、大学の施設を使うのは非常に難しいことがわかってきたので、今後はどうなのだろうと感じました。

あとボランティアをやりたい人が多いという結果を見て、逆にああそうなんだと思ったのですが、自分は市民駅伝、七草マラソンを運営する立場にいたときに、いつもスポーツ推進委員や市民スポーツ指導員のお手伝いをお願いして、なんとか運営をやっていました。一般のボランティアを募集したときに、果たして応募がくるのかと、その人たちをどうやって集約したらよいかといった面が、一団体ではよくわからないなと感じました。

ソフトボールも世界大会でボランティア募集したのですよね。でも結果的にはどれだけ集まったか。ソフトボール協会が中心になってやった感じもするし、そのあたりが、実際のところどうなのだろうと思いました。ソフトはどうだったのですか。

矢坂会長：県で集めたソフト関係者以外のボランティアは150人くらい。市で集めたソフト関係者含むボランティアは200人くらいですかね。総勢で350人くらいいたと思います。ですから割振りをするのが大変でした。一日二日くらいなら簡単にできると思いますが、長丁場ですと振り分けるのが大変だと思います。

大沢委員：ボランティアについて、市民の目線でみると、参加することはなんとなく敷居が高いようなイメージがあります。スポーツ団体が仕切っているから、一般の市民がボランティアをするには制限があるのかなとか、手を挙げづらいイメージがある気

がします。アンケートではやりたい、参加したいという人が半分くらいいるのに参加できていないということは、どこでボランティアができるかといった情報が少ないのではないのでしょうか。

矢坂会長：競技団体によっては役員だけで運営が済んでしまうといった場合もありますし、大きな大会ですと、SNSとかホームページとかで皆さんに投げかけても、見る人と見ない人とがいると思います。見て連絡をしてくれた方を受け入れるのはできますが、集約するのが難しいと思います。今回、世界ソフトについては、市内の20数団体、すべての組織にお手紙を出しました。手間暇はかかりましたが、そうでないと告知もできませんし、応募したい人もどこに応募してよいかわからないと思います。オリンピックとか大きなイベントで、お金もあるし、何もあると、いったところであれば、募集にもお金をかけられると思いますが、そうはいかなかったので、各組織の長の方に「何人お願いします」といった方法をとりました。そのように頼まないと投げかけてもうまくいかない。本当は皆さんに来ていただきたいと思いますが現実的には難しいと思います。

遠山委員：アンケートについて、公表するタイミングはこれから考えるのだと思います。今後計画を策定する中で、この報告書というタイトルで、手元にある資料を公開してもいいとは思いますが、足りないのはこのアンケート結果からこれからどうするという考察がまるっきり抜けていると思うので、計画を作る際にはそういった考察を入れて、だからこうしていこうと、いう計画に多分なっていくのではないかと思います。報告書というタイトルで公開するならばそこを整えてから公開したほうが良いと思います。結果的に何が何パーセントでした、増えています、減っています、それは何が原因かと、だからこうしていかなければいけないのだと、しっかりと記述をして、報告書というかたちで公開するのが望ましいのではないと思うので一考いただければと思います。

矢坂会長：各委員さん方からいろいろな御意見を頂戴したかと思しますので、それを踏まえて直せるところは直して、今回は報告書という形を出していただくということでよろしいでしょうか。ほかにもお気づきの点などございましたら、担当課まで一報いただけるとより良いものが出来上がると思いますので、御協力の程、よろしく願いいたします。

谷藤委員：いつまでに報告を上げなくてはいけないとか内規であるのですか。

事務局：特に期限の定めはないものの、前回アンケートを行った際は、報告書の公開ができたのが28年度末となってしまいました。アンケートに回答していただいた方のためにも、一旦は、簡略化したものでも、早めの時期に公開したいなという思いがあり、集計結果だけの報告書案を御用意した次第です。

そこにクロス集計が必要だとか、考察が必要だということになれば、やはり前回と同じような時間がかかってこようかと思しますので、そこについて審議会の委員さんからこうすべきと、時間がかかってもある程度報告書の体裁を整えるべきとするのか、あるいは速報として、集計結果だけを出すべきかと、御意見を頂戴できればというところであります。

谷藤委員：速報版を今の時点を出して、後々しっかりした報告書を出す二段階でも良いのではないかなと感じました。

遠山委員：それで良いのではないですかね。ただ、分析と考察は出来ていないと次の計画が

出来る訳がないので、前回は公開が一年先になってしまったというのは実務的にそういうスケジュールになってしまったのかもしれませんが、計画を作っていく作業の中にはアンケート結果がこうでした、今までの計画がこうでした、進捗状況はこうでした、次はこうしなくてはいけないという作業があって、次期計画が出来るのではないかと思うので、計画の公表と同じタイミングになるということはないと思うんですね。アンケートに御協力いただいた方に対してというのは事務局のお考えのとおりだと思いますので、先程委員からありましたとおり、概要版を先にとというのが一番いいのかなと思います。

大沢委員：報告書とは別に、分析という意味で、この報告ではスポーツをやっている人とやっていない人の地域別のデータはわかりません。例えばスポーツクラブや公園が多くある地区の人はスポーツをやっているといった数字が知りたいです。スポーツ施設等の地図と、今回のスポーツをやっている市民の割合の分布について分析があると良いのではないかと思います。

事務局：少し検討させてください。

矢坂会長：委員さんからいろいろな意見が出ましたので、それを踏まえて、概要版でもいいので報告を先にして、それから分析等をして計画の策定に移りたいと思います。

第6 協議

(1) 次期習志野市スポーツ推進計画の策定について

【資料に基づき事務局より説明】

谷藤委員：体系の将来像について、「スポーツによるまちの活性化」はあったほうが良いと思います。「生涯にわたり親しむ豊かなスポーツライフの実現」だけだと、やりたい人はやれば良いじゃん、と、個人の話というイメージが強くなってしまっているので、そうではなくて、みんなに関係することなんだ、というのがあったほうが良いのではないかと思います。いくつか施策のところで変わったところですが、「する」の(4)、ニュースポーツですが、すごく競技性の高いニュースポーツもあればそうでないものもあり色々だと思いますが、思い切ってここはニュースポーツを取ってしまっただけではどうか。「気軽に行える運動の推進」だけで良いのではないかと感じました。

そのほかで大きなところでは、支えるの(2)。先程スポーツボランティアは敷居が高いという話がありましたが、スポーツを支える人材という表現のほうがハードルが高いのかはわかりませんが、右側に現体系の施策の記載がありますが、この団体がやるというのではなく、一人一人がばらばらとボランティアをやりたいと思ったときに、情報はどこにあるのか、こんな感じでやれるんだとか、ボランティアに対する理解をするといった要素が必要なのかなと思っています。人材育成まで言ってしまうと、少し重いなと感じます。その下の(3)(4)については「環境整備」という一括りでも良いのではないかと気がします。

支えるについては「団体」「人」「環境」という三本柱でよいかなと思います。前段の活動指標についても、アンケート結果をもとに目標値を上げるとか下げるとかあるとは思いますが、項目ももう少し考えても良いのではないかという気がしたので、もう少し時間をかけなくてはいけないのかなと。例えば「する」に関しては、週一でいろいろしているのですが、今回の調査を見ても、運動をしている人

の9割は週一以上で運動をしている一方で、運動をしていない人が4割以上というのは国に対して相当多いので、そういった運動していない人を減らす、無くすと。国の指標の一つにもなっているので、そちらも重視していかなくてはならないと感じました。

滝田委員：将来像について、自分がいるときにこのような形にしたのですが、なぜ「スポーツによるまちの活性化」としたかという、市のスローガンで「一市民スポーツボランティア」というのがあるのに、今は音楽のまち習志野というのが前面にでてしまっていて、どうなのかなという思いがあったのと、スポーツの大会やイベントを市がやることで、地域を活性化するというのは、他の市でも取り組んでいることなどもあり、当時入れたように思います。音楽ばかり前面に出さないで、スポーツでもまちを活性化させようとしているんだよというのがあれば、残ったほうがいいのではないかと思います。

施策の中のニュースポーツについては先程おっしゃられたように、ニュースポーツは気軽に行える運動の中の一つだという捉え方をすれば無くても良いのかなと、具体的なほうに入っていれば良いのではないかなという印象を受けました。

ニュースポーツとはこういうのがあるんだと、やっている人はわかるけれど、聞いた人はよくわからないのではないかという気がするので、気軽に行える運動の一つがニュースポーツだよというほうが、見た人はわかりやすいのではないかと思います。

矢坂会長：施策ですが、項目が少なくても中身が充実していれば良いのではないかと思います。ですから、皆さんにわかりやすいかたちのものにしていただきたいなと思います。運動は健康増進につながるものでもありますので、標記にもありますが、もう少し考えてやっていけばいいと思います。

阿川委員：細かいことになりますが、先程のニュースポーツのところについてです。前回の平成26年度の時には現在の計画は出来上がっていたと思いますが、確か市政60周年記念のときに事業の見直しでニュースポーツフェスティバルというのをやって、それから継続してやってきているわけなのですが、それが事業の中に入ってきていないのは何か理由があるのでしょうか。26年当時はまだ入っていなかったのが現計画に入っていないのはわかるのですが、次期計画にも入っていないというのは。「みる」スポーツの推進の(2)のところ、千葉ロッテは習志野にないので入れていないのだと思うのですが、市とロッテは協定を締結していますよね。阿武松部屋がないのは？

事務局：意図的に抜いたということではなく、今回の体系案の右側にありますのは、現行計画の事業がどこにあてはまるかといった目線で作成しました。新たな計画でどんな事業をやっていくかということについてはこれからのことになります。そうしたことからニュースポーツフェスティバルについても、この計画が策定されたのが25年度で26年度から施行した計画ということで入っていないということです。今やっているものについてもこれからこの中に入れていこうと考えています。

河村委員：スポーツなのか運動なのかという議論もあったので、最近だと身体活動量という言葉でとにかく仕事中でも何か運動してどれくらい身体を動かしているかということ確保していこうということもあるので、どういうところに目的とかターゲットをもってやるかで、施策を全部が全部やらなくてはならないとは思いますが、ど

こか特徴というか、特にここは強化していきたいというところを考えていっても良いのかなと。データの分析の話もあったので、「する」「みる」「支える」のパーセンテージも年代別に出していったときに、この年代に対してはこの施策といったターゲットで、こういうことをやっていきたいというような、特にやっていきたいところ、課題のあるところについて一つだけ掘り下げて、数値目標や計画の中身について考えていけると、具体的になり効果も表れやすいのかなと思いますので分析も含めてやっていただければいいなと思います。

矢坂会長：将来像については現行のままで、2項目ということで皆さん如何ですか。

遠山委員：将来像が二つあるというのもどうかと思いますので、二つを一つにくっつけて文章化しても良いのではないのでしょうか。まさに前回あった活性化というところが、御意見でもありましたが、今のスポーツライフの実現というのが個人の活動にとどまってしまうようなイメージがどうしても強くて、それがうまい具合にまちの活性化というところ、表現は様々だと思いますけども、もう少しこう大きな範囲で影響を及ぼすようなイメージが、前段の活性化にはあるかと思しますので、残していったほうがいいのだと思います。前回の計画から6年経って、高齢化も一層進んで、先程の話ではスポーツの定義の部分は、計画においては運動の分野も広く含んでいこうというところは合致していると思いますので、するスポーツの健康増進への寄与というところももう少し厚みが出てきてもいいのかなと。高齢者、障がいのある方への支援という項目でありますけども、これもお話にありましたとおり、いわゆる中高年世代の運動不足がやがて高齢化したときに健康を損なうということに確実につながりますから、その世代から働き盛りなんだろうけども、その世代にどういう運動習慣、スポーツ習慣を植え付けていけるかというところが、健康というところキーに考えたときに重要な項目になるんだらうなと思いますので、何か工夫が出来ればと思います。

矢坂会長：それでは将来像については創意工夫してまちの活性化も含めて一本化で、将来像を考えていっていただきたいと思います。柱に関しては「する」「みる」「支える」が良いと思いますので、後は施策に関して、もう少し考えて、皆さんにわかりやすく、それとあまりハードルが高いような文言は控えるようにして、わかりやすくしていただきたいと思います。それと健康増進について遠山委員からもありましたが、スポーツもそうですけど、運動の項目も増えてくると思いますので、それも踏まえて施策のほうをきちんとしていきたいと思ひますし、後は計画に関しては、また皆さんとお話をして考えていけば良いと思いますので、大まかなところだけ修正していただければと思います。

及川副会長：先程谷藤委員が支えるスポーツの(3)(4)を一緒にしてはどうかという意見があったのですが、私もここは一本にしたほうが良いかなと思ひました。計画の中では市内の大学の活用事業というのが、先程滝田委員もおっしゃったように、現実的には無理なのではないかと、前も同じような発言をしたような気がするんですけども、この施策をいつまであげておくのかなと、いうのがあるので、このへんは(3)(4)を一緒にしてしまつて、大学の活用事業はカットしてしまつても良いのではないかと感じました。

矢坂会長：今後、施策のほうの項目も含めて考えていきましょう。

谷藤委員：アンケートの細かい分析をして、さらに細くなると思うので、その要望も含め

て、年齢分析をしていただけるということで、年齢別のターゲットで、「する」施策を推進していただければ。「みる」「支える」については、全体の数字は微増、「支える」が少し増えていますけど、そこに関して年齢で分析して、年齢別等にターゲットを設定し施策を推進する取組はまだあまりやられてないと思うので、是非やれるといいなと感じました。こちらのほうも年齢でどうかと見ていただいてターゲットを絞れると、特に子供が「みる」「支える」を始めると次につながるの Good かなと感じました。

矢坂会長：特に習志野市は習志野高校がありますので、「支える」ほうに回っていただけると非常に良いと思いますので、その辺も考えて、「支える」のほか、「みる」もだいぶ上向きになってきておりますので、もう少し文言等々精査しましょう。

大沢委員：指導者の話ですが、順天堂大学に「女性スポーツ研究センター」というところがあります。女性のアスリートは高校、大学くらいまでスポーツをやって、引退して、その後指導者になる人は少なく、男性の方はずっと指導者として残っている一方、女性は昔スポーツやっていたけれども、主婦になってスポーツをやらないという人が多いというのが問題になっていて、そういった昔スポーツやっていた女性の方が今後指導者として活躍するような支援が出来たらいいなと感じました。

矢坂委員：人材バンクという制度があるのですが、それが活用できていないということだと思います。

第7 その他

事務局：今後のスケジュールについてです。次回の会議日程は、平成31年2月6日水曜日、時間は今日と同じ15時から。会場は本日と同じこの会場で開催となります。

矢坂会長：2月6日までまだ時間がありますので、本日言い足りなかったこと等ありましたら、事務局まで進言していただけますようよろしくお願いいたします。

長時間御審議ありがとうございました。本日はこれにて閉会いたします。

2月までに事務局でまとめさせていただきますので、皆様の御協力の程、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以上